

お日様とお月様と暦の話

千葉県稲毛区 大谷 祥

昨年六月号に高山さんと齊藤さんによる『暦と農作業』のお話が掲載されましたが、今回はお日様とお月様と暦の関係について書いてみます。

会社勤めをしていた頃はそれほど気にしていませんでしたが、野良仕事を始めてから、お日様の高さが気になるようになりました。千葉市では冬至の頃のお日様の南中高度（お昼頃にお日様が最も高くなった時の角度）は約31度、夏至の頃は約78度と随分違います。昔の人達はこのようなお日様の動きと、お月様の満ち欠けを調べて暦を作っていました。暦には大きく分けて太陽暦、太陰暦、太陰太陽暦の三つがあります。

太陽暦は現在の日本で使われているもので、お日様を中心として地球がどの位置にあるかで決まる暦です。地球は365日と5時間48分ほどでお日様のまわりを一周します。よって、一年を365日とすると、半端の6時間弱の分のずれが生じ、それを4年分集めて閏（うるう）日を入れる事でずれを修正します。お日様と地球の位置関係が月日によってほぼ確定することが太陽暦の利点です。エジプトではナイル川の氾濫を把握するために、古くから使われていました。

太陰暦は、お月様の満ち欠けで日を数えます。お月様は約29日半で新月から満月、そしてまた新月へと変わっていきませんが、この周期を「ひと月」と数えるのが太陰暦です。そうすると十二ヶ月が約354日となり、太陽暦の一年より約11日、短くなります。そうすると毎年、太陰暦の一月一日のお日様の位置はどんどんずれていきます。季節と暦がずれるため、農作業用の暦としては不向きですが、お日様の正確な位置を把握するよりは月の満ち欠けを見る方が日数を数えやすいため、昔は様々な地域で使われていたようです。

ちなみにイスラム教圏で用いられているヒジュラ暦は太陰暦で、ニュースなどで最近聞く機会が増えた断食の月「ラマダーン」とは、ヒジュラ暦の第九の月の名前です。昨年はこのラマダーンがたまたまロンドンオリンピックの期間と重なったため、イスラム教圏の選手達は日中に食事を摂れず、御苦労が多かったようです。

三つ目の太陰太陽暦は、太陰暦に閏月（うるうづき）を適宜加える事で、太陽暦とのずれをなるべく少なくするものです。太陽暦と太陰暦は一年で約11日の差があるので、約3年に1回、閏月を挿入する事で誤差を少なく出来ます。紀元前433年にギリシャの数学者メトンが「19年に7回、閏月を入れると誤差を小さく出来る」事を発見し、その後、世界各地で太陰太陽暦が用いられるようになりました。日本でも明治5年にグレゴリオ暦（いわゆる「新暦」）が採用されるまでは太陰太陽暦を用いていました。なお、太陰太陽暦には種類が少なからずあり、日本でも少しずつ変化していましたが、その話はここでは省略します。

ちなみに昨年は閏月があった年でもあり、三月が二回ありました。

太陽暦	太陰太陽暦
3月22日	3月 1日
4月20日	3月30日
4月21日	閏3月 1日
5月20日	閏3月30日
5月21日	4月 1日

暦と季節のずれを修正するために中国で使われ始めたのが二十四節気で、立春、雨水、春分、夏至、大暑、白露、秋分、冬至、大寒などがあります。これらはお日様と地球の位置によって決まる物で、例えば雨水は「お日様が地球から見て330度の位置にある日」と定まっています。そして「雨水を含む月（新月から次の新月までの期間）を正月とする」と決めてあります。

現在も残っている風習には、本来は太陰太陽暦、いわゆる「旧暦」でのものが多くあります。例えば

七月七日の七夕。これは本来、旧暦七月七日、即ち新暦では八月になることが多い行事です。「七月七日」という月日をそのまま新暦に移行したため、関東では梅雨の真っ只中であることが多く、織姫と彦星が見られなかったりします。宮城県仙台市の仙台七夕まつりは新暦の八月六日から八日にかけて行われる、本来の七夕まつりとして有名です。

五月五日の端午の節句も本来は「午（うま）の月」である旧暦の五月の五日（新暦六月）の行事であり、「鯉のぼりは梅雨の雨を滝に見立てて、鯉が昇って龍になるというのが本来の演出ではないか」という説があります。よって、新暦五月の快晴の空に鯉がたなびく姿というのは、本来とはやはずれたものかもしれません。菖蒲湯も、旧暦の五月五日（今年は新暦六月十三日でした）に入るものです。

なお、日本では日本独特の気候にあった雑節があります。「八十八夜」は立春を一日目として八十八日目とした雑節の一つ。「半夏生」は夏至から数えて十一日目の、二十四節気を細分化した七十二候の一つ。「節分」は本来、立春、立夏、立秋、立冬の各季節の始まりの日の前日を表しますが、特に旧暦での大晦日にあたる、立春の前日の日を指すことが多いです。「お彼岸」は春分と秋分を中日とした前後三日ずつを含む七日間ずつの期間。これらはいずれもお日様を基準とした二十四節気に基づいているため、季節とのずれがありません。他にも「入梅」や「土用」などがあります。

それぞれの国の気候や風土、文化にあった暦が作られています。日本のように四季がはっきりして自然豊かな国では、暦にもたくさんの思いが込められているように思います。旧暦を意識して過ごしてみると、自然の移り変わりをより感じられるかもしれませんね。

二十四節気

暦の季節	二十四節気		2013-2014年	
			新暦	旧暦月 (新暦での1日)
春	立春	りっしゅん	2月4日	正月 (2/10~)
	雨水	うすい	2月18日	
	啓蟄	けいちつ	3月5日	二月 (3/12~)
	春分	しゅんぶん	3月20日	
	清明	せいめい	4月5日	三月 (4/10~)
	穀雨	こくう	4月20日	
夏	立夏	りっか	5月5日	四月 (5/10~)
	小満	しょうまん	5月21日	
	芒種	ぼうしゅ	6月5日	五月 (6/9~)
	夏至	げし	6月21日	
	小暑	しょうしょ	7月7日	六月 (7/8~)
	大暑	たいしょ	7月23日	

暦の季節	二十四節気		2013~2014年	
			新暦	旧暦月 (新暦での1日)
秋	立秋	りっしゅう	8月7日	七月 (8/7~)
	処暑	しょしょ	8月23日	
	白露	はくろ	9月7日	八月 (9/5~)
	秋分	しゅうぶん	9月23日	
	寒露	かんろ	10月8日	九月 (10/5~)
	霜降	そうこう	10月23日	
冬	立冬	りっとう	11月7日	十月 (11/3~)
	小雪	しょうせつ	11月22日	
	大雪	たいせつ	12月7日	十一月 (12/3~)
	冬至	とうじ	12月22日	
	小寒	しょうかん	1月5日	十二月 (1/1~)
	大寒	だいかん	1月20日	

今と昔でタイミングが異なる年中行事

	新暦	旧暦(2013年)
七草(人日)	1月7日	2月16日
ひな祭り(上巳)	3月3日	4月12日
はな祭り(灌仏)	4月8日	5月17日
端午	5月5日	6月13日
七夕	7月7日	8月13日
盆	7月15日	8月21日
八朔(田の実の節句)	8月1日	9月5日
重陽(菊の節句)	9月9日	10月13日



里山たんけんレポート

第161回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013年6月2日(日) 晴れ

梅雨に入ったとはいえながら快晴になって生きものはたくさん姿を現してくれました。定例コース脇の水路周辺では二ホンカワトンボとヤマサナエが密度濃く飛び回っていました。今日は昆虫大好き少年が参加しており目ざとく様々な虫を見つけてくれます。観察対象が多くなかなか歩みが進みません。と、ヤマサナエが自分の身体より大きいトモエガの仲間を捕まえ目の前に落ちてきました。暴れるガを押さえつけ噛みつき放しません。相当食べられてもガは翅をバタバタさせています。近づいてガの翅の表の紋様を見ようと翅を触ってもヤマサナエは食べ続けています。しばらく見てから先へ進み帰りに見たところ前翅2枚は切り離されていましたが際のU字溝に落ちたまままだ食べ続けていました。何となく線の細いひよわそうなヤマサナエの印象ですが逞しさに驚嘆しました。例年はガズミやウツギが満開の頃ですが今年は花が早くほとんど終わっていました。ヤマグワの実は丁度食べごろで道々摘んで口にしました。ヤハズソウで遊んだり、フシゲチガヤとチガヤ、スカシタゴボウとイヌガラシ、キツネノボタンとケキツネノボタンの違いを観察したり、サンショウの若葉を味わったりしました。ウグイスの囀りの中、たくさんの生きものとの出会いがあった観察会でした。

(参加者 大人8名、高校生6名、こども1名; 報告: 網代春男)

下大和田 YPP 148 回「田の草取り」(兼、第5回米づくり講座)

2013年6月15日(土) くもり

雨が残り、特に午後は雷雨の予報でした。そんな中たくさんの方々が大和田の草取りに集まりました。田んぼを一巡して田の草を観察してから草を取る予定でしたが、午後雷雨の予報があったので草取りにかかりました。皆さん、ひたむきに草を取りコシヒカリ田は午前中に取り終えてしまいました。昼食時にちょっと雨が降りましたが間もなく止み、晴れてきました。順調に作業が進んだので午後は古代米田の草取りをするグループと朝省略した田んぼの草を観察するグループに分かれ活動再開しました。観察は YPP 田から大塚田を巡り、要保護生物を主体に見て回りました。湿地環境が維持されていれば要保護生物も普通種も何ら変わらずに生息し続けられる姿がそこにありました。田んぼはすっかりきれいになってすがすがしいたまたまになりました。こども達はザリガニやメダカ取りに熱中した一日でした。



(参加者 大人20名、こども9名、幼児5名; 報告: 網代春男)

小山町 YPP 第94回「田起こし」

2013年6月16日(日) 雨

朝から本降りの雨。それでもカッパを着て駆けつけてくれた皆さんで作業をしました。当初は田植えを行う予定でしたが、はじめての田んぼで水張りに苦労しているうちに草が生えそろってしまったので、田起こしをしながら草を取りました。横に這うように伸びて次々と根を張り巡らせるイボクサはなかなか厄介な雑草ですが、それが一面の生えてしまったので、なかなか大変な作業でした。カッパを着ていても汗で服がびしょり濡れてしまう中、がんばってくださったお陰で、田んぼのほとんどが田植えできるようになりました。作業中、終始田んぼの近くのヤブで美声を響かせて応援してくれたウグイスにも感謝です。

(参加者: 大人4名、小学生1名;
報告: 高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 6月15日 田んぼからノシメトンボ、コノシメトンボ、ナツアカネなどアカネ類のトンボが次々と羽化。また、オオシオカラトンボは産卵していた。林からヒメハルゼミらしき声がした（高山）。
- 6月29日 林の中からキビタキのさえずりが聞こえる。ヒグラシが鳴き始める（高山）。

下大和田

- 6月4日 サンコウチョウの囀りが南側の山から聞こえる。4羽のツバメが田んぼの土を盛んに取りに来る（網代）。
- 6月5日 カワラヒワ6羽が田んぼの水たまりで水浴び（網代）。
- 6月25日 サンコウチョウの囀りが聞こえる（網代）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼149回下大和田 YPP「あぜの草取り」(兼第6回米づくり講座)

梅雨が明け、コシヒカリの花が開くのも間近なこの季節、田んぼのあぜで勢いよく生育する雑草を抜きます。真夏の生きものを観察しながら楽しく作業しましょう。

日時： 2013年7月20日（土）10～14時 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

▼第163回 下大和田 8月の谷津田観察会とごみ拾い

子供たちに人気のカブトムシやクワガタムシ、トンボやセミなど夏の昆虫が元気いっぱい季節です。彼等といっよに夏の一日を過ごしましょう。

日時： 2013年8月4日（日）10～12時 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物（暑いのでたっぷり）、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

▼第95回 小山町 YPP「田んぼの草取り」

稲と競い合って生育するコナギなど田んぼの草取りをします。たくさんの生きものが暮らす田んぼでひと汗流してみませんか？

日時： 2013年7月14日（日）10:00～12:30、小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴（田んぼでの作業なので長めがいいです）、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主催： ちば環境情報センター

編集後記 7月は旧暦で文月と呼ばれます。その由来にはいろいろな説があるようですが、その一つとして7月は稲穂がふくらむ月なので「穂含月（ほふみづき）」と呼ばれたことから転じたとされています。コシヒカリは梅雨の間、葉っぱの中で稲穂が作られ、7月下旬になると穂が顔を出して花を咲かせます。旧暦だと一ヶ月ほど遅れるので古代米だと文月に稲穂がふくらむことになって季節がぴったり合いますね。今年も稲穂を見るのが楽しみです。（高山 邦明）